

# 注 意 報

長崎県病害虫防除所長

平成29年度病害虫発生予察 注意報第10号

## いちご ハダニ類

- 1. 発生地域（対象地域） 県内全域
- 2. 発生程度 多
- 3. 注意報発令の根拠

- (1) 本虫については、平成29年12月18日付け病害虫発生予察注意報第9号で防除の徹底を呼びかけているが、その後の発生も増加傾向で推移しており、1月後期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は23.4%（平年5.1%）、発生圃場率は74.1%（平年40.7%）であった（図1、2）。
- (2) 気象予報（福岡管区气象台、平成30年2月1日発表）によると、向こう1か月の気温は平年より低い見込みであるが、その後の気温の上昇に伴い、ハダニ類の発生がさらに増加することが予想される。

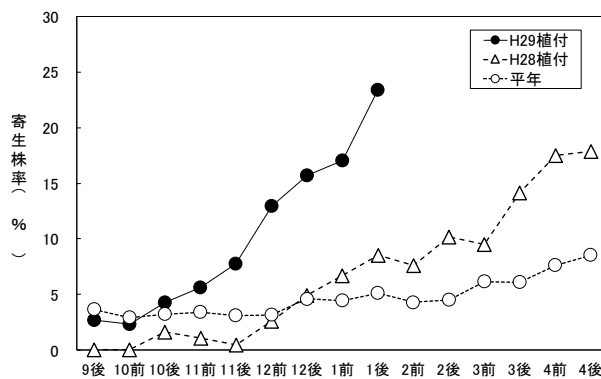


図1 いちご ハダニ類 寄生株率の推移  
平年:H19~H28の平均値(最大・小値除く)

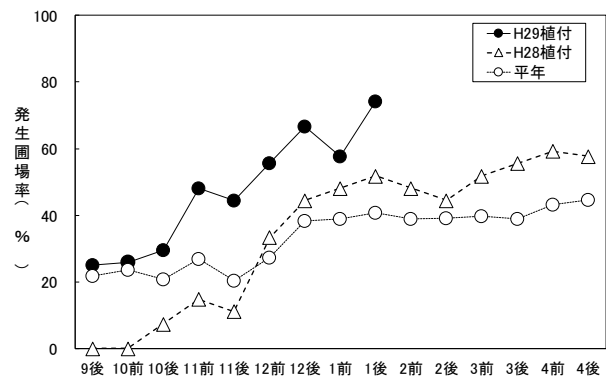


図2 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移  
平年:H19~H28の平均値(最大・小値除く)

#### 4. 防除対策

- (1) 下葉の裏に多く寄生するので、薬剤散布は薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に行う。なお、茎葉が繁茂し、葉裏や株内部への薬剤の付着が不十分で、十分な防除効果が得られていない圃場も見受けられるため、古葉を摘葉して防除を行う。特に「ゆめのか」は「さちのか」よりも茎葉が繁茂しやすいため、農薬が葉裏まで十分かかるように留意する。
- (2) 既に多発している圃場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の付着むら等で効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら数回散布する。
- (3) 薬剤感受性が低下しやすいので、系統の異なる薬剤（平成29年長崎県病害虫防除基準P210～

213の「作用機構による分類（IRAC）」参照）をローテーション散布する。

なお、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤は、卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。

- (4) 天敵（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を使用している圃場では、ハダニ類の発生状況に応じて天敵に影響の少ない薬剤を使用する。
- (5) 薬剤散布の際は、ハウスのみつばち用出入口を防ぎ、薬剤が巣箱にかからないように注意することや、散布後はハウス内の換気を十分行うなど、ミツバチに影響の無いよう適正に管理する。

---

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

